

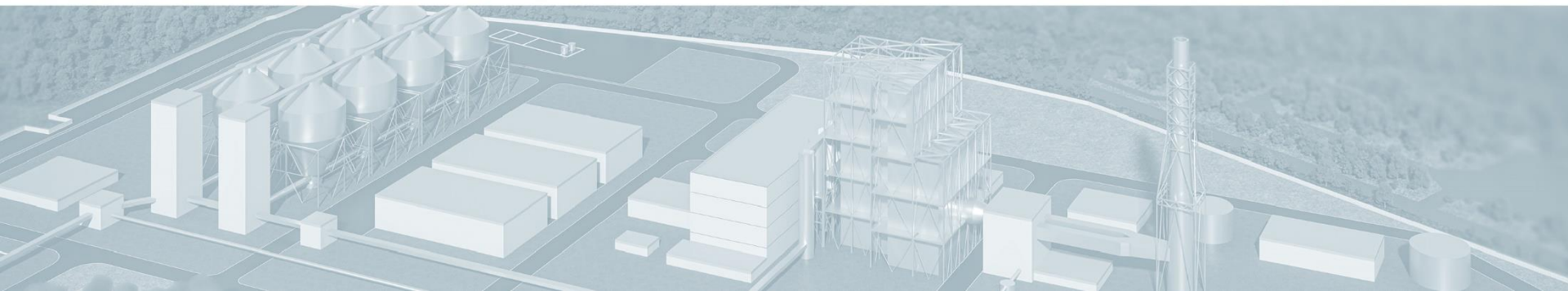


イーレックス株式会社
第23期 定時株主総会
2021年6月22日





企業集団の現況 (2021年3月期事業報告)



世界の脱炭素化に向けた潮流は加速



新型コロナの拡大

都市の脱炭素 世界で協力 環境省が国際会議

気候変動サミット

途上国への支援額増
米方針 脱炭素、世界一丸で

米中、温暖化対策で協力
「G7 石炭火力全廃を」
英提案、日本孤立も

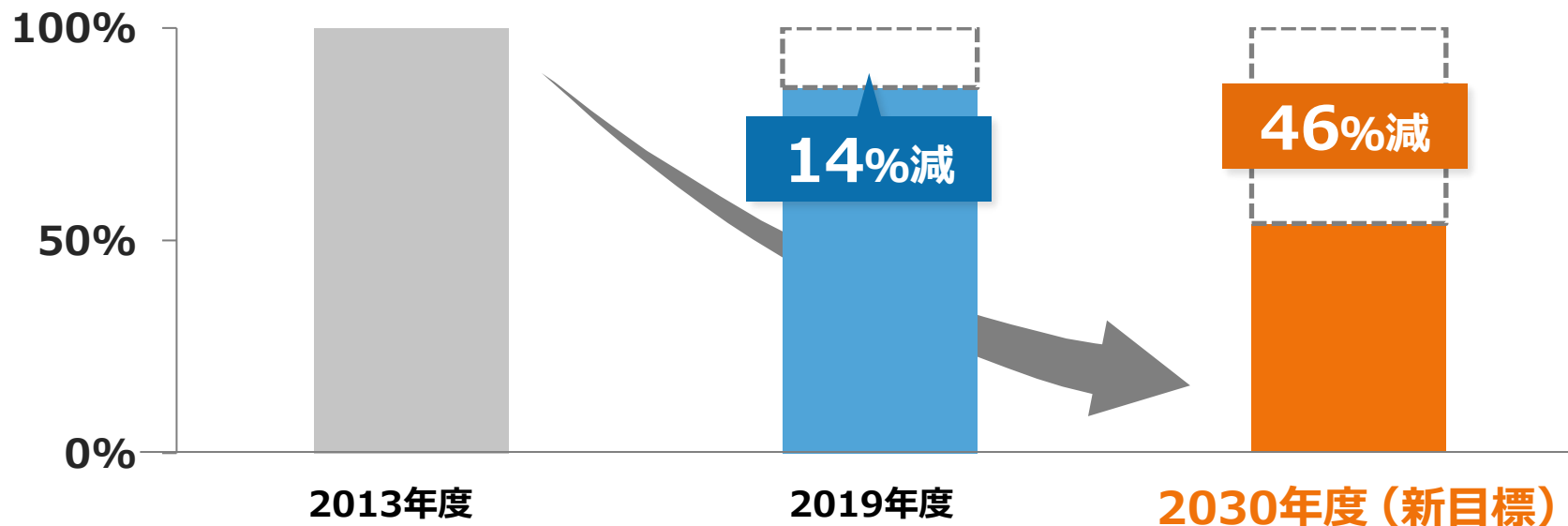
脱炭素取り組み加速

気候変動対策を加速



世界共通の課題解決に向けた
協調の動きが活発化

温暖化ガス排出を2013年比で46%削減



化石燃料から再生可能エネルギーへの転換継続

脱炭素社会の実現

新型コロナウイルスの影響により電力需要は低迷

今冬の市場高騰により新電力の経営は悪化

電力小売事業における過当競争の継続

化石燃料から再生可能エネルギーへの移行



**先行き不透明感による新電力の再編
脱炭素需要の高まり**

エバーグリーンを中心とした販売会社3社体制

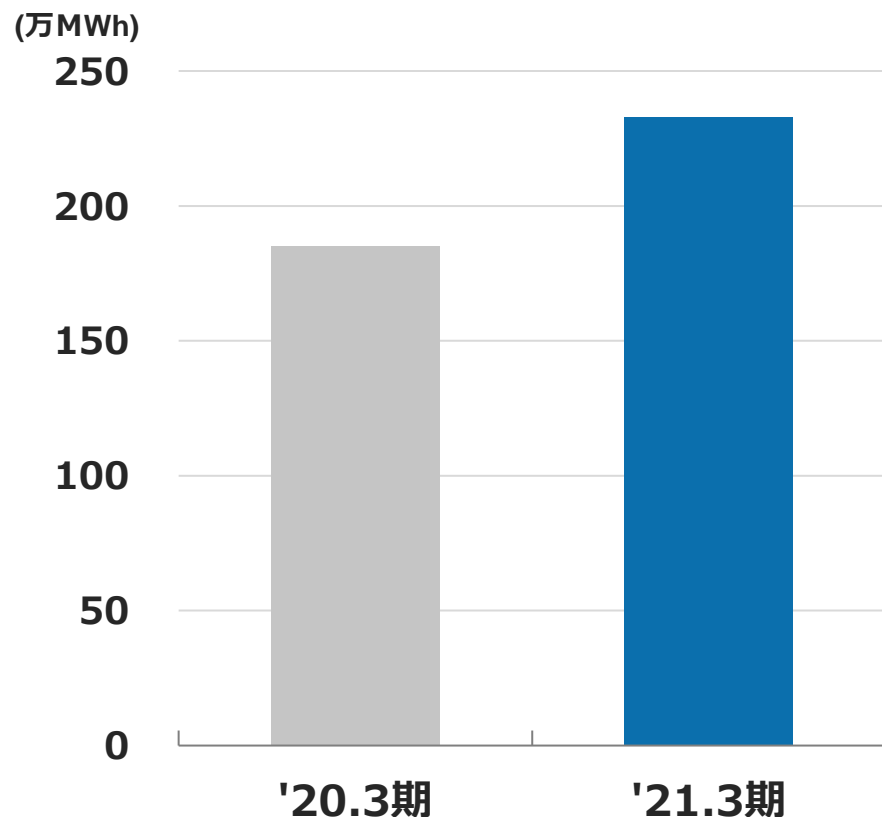


2020年6月に買収



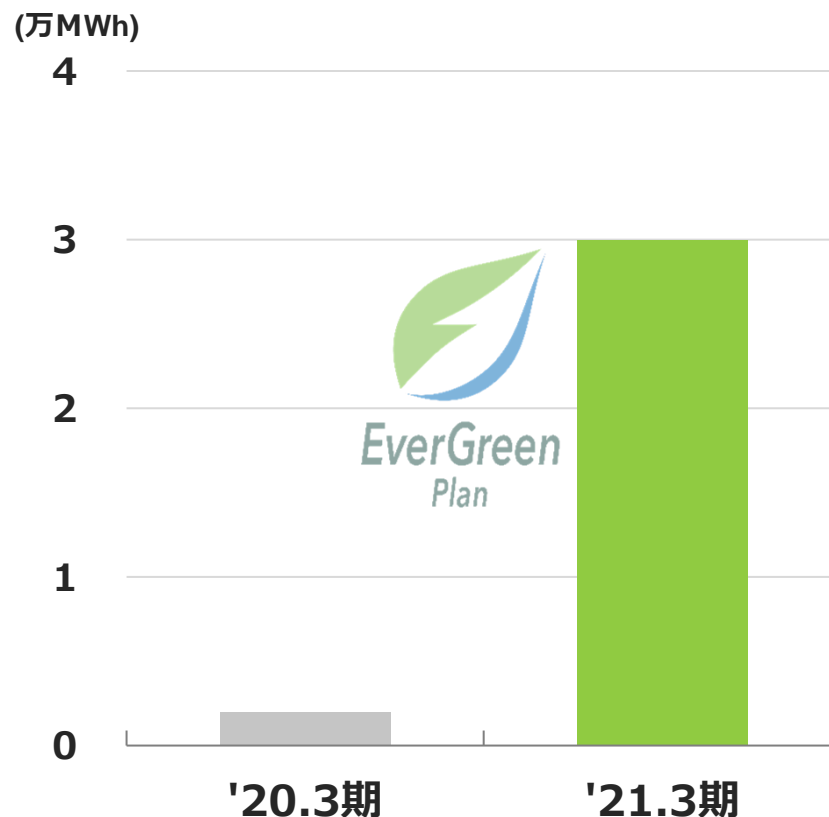
3社体制による販売強化、M&Aの推進
CO2フリープランの販売拡大

販売電力量



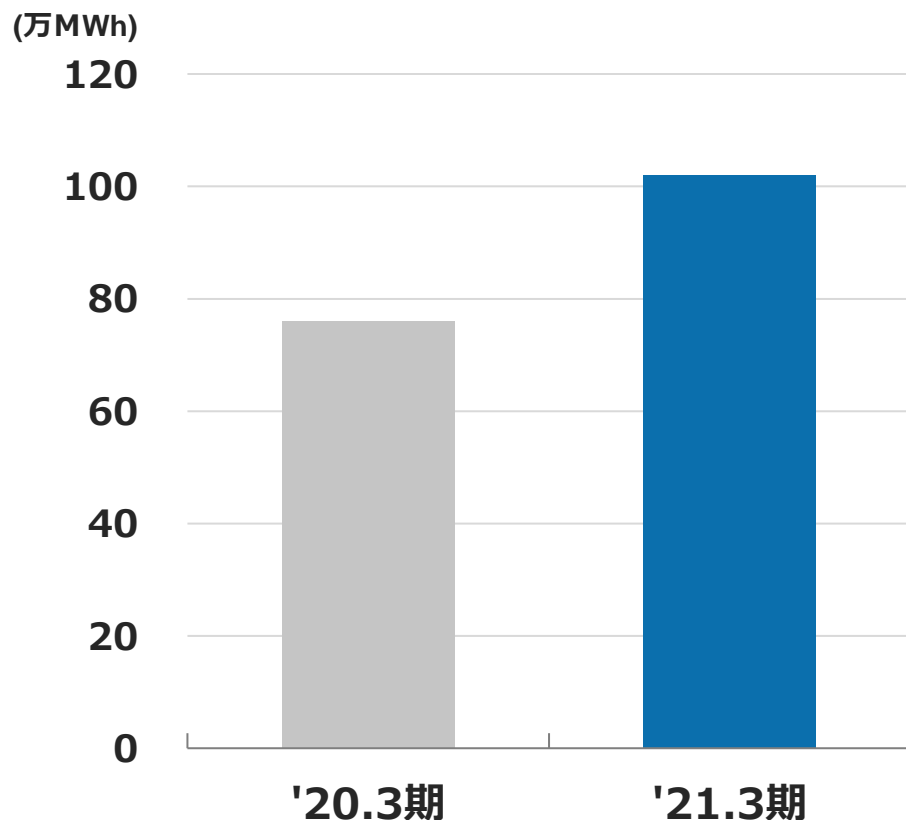
233万MWh
(前年比+26.3%)

CO2フリープラン 販売電力量



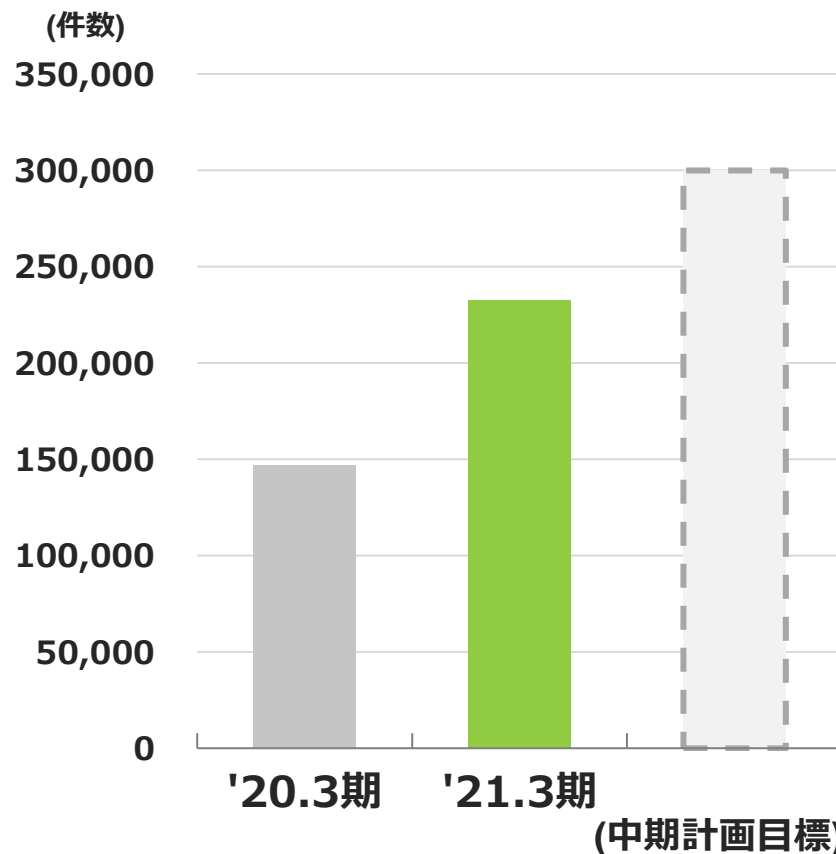
3万MWh
(前年比12倍)

販売電力量



102万MWh
(前年比+33.4%)

供給施設件数



23万3千件
(前年比+8万8千件)

土佐(20MW)



前期に大規模修繕実施

佐伯(50MW)



出力抑制を余儀なくされたものの、影響は軽微

高い稼働率を維持

豊前(75MW)



大船渡(75MW)

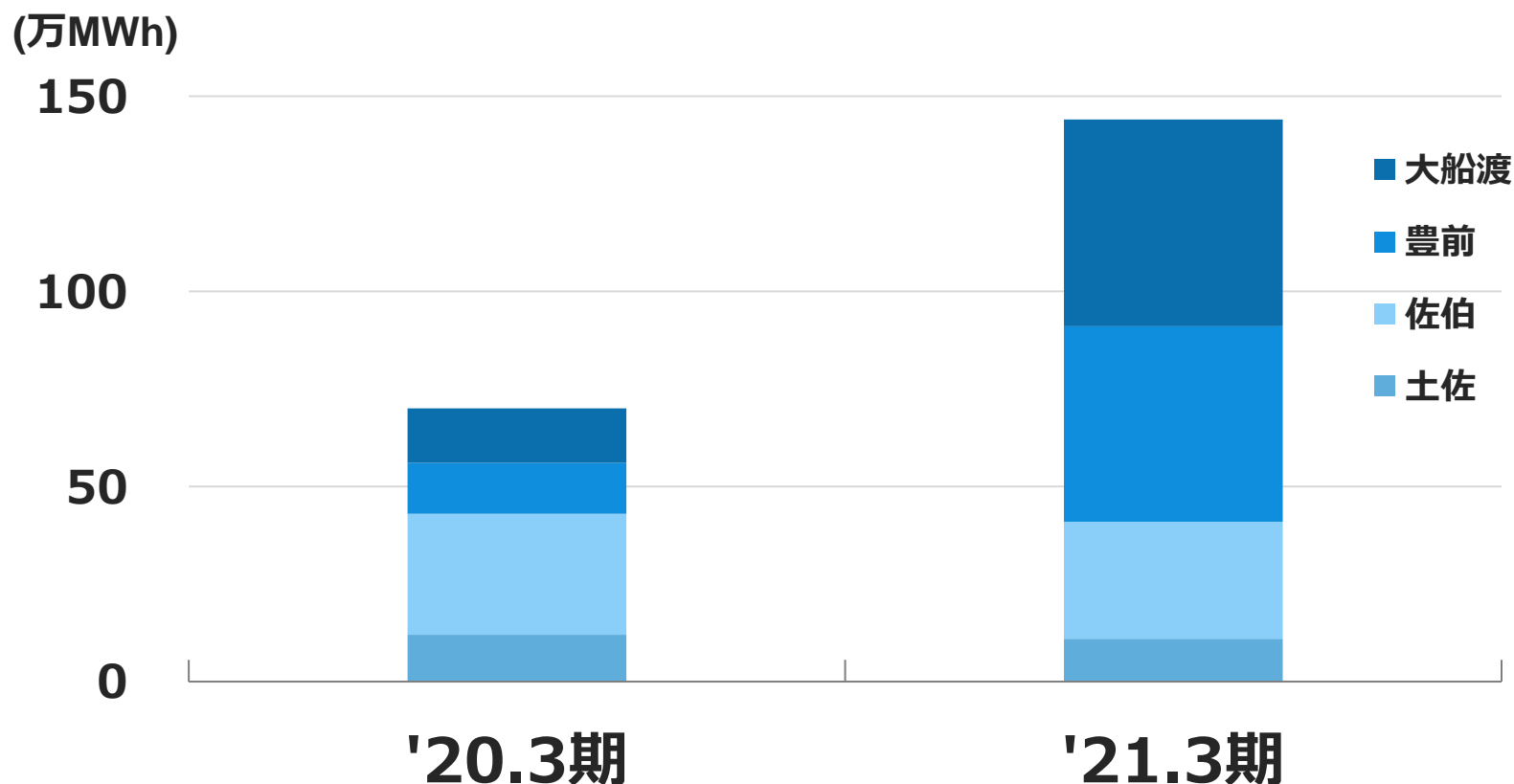


2020年1月より営業運転開始



高い稼働率を維持

当社グループの発電所における発電量



146万MWh (前年比+103.4%)

中城（49MW、沖縄うるま市）

遠景



2021年7月
営業運転に向け、
計画通り進捗



近景

事業概要

完成予想図

発電能力 80MW (369GWh/年)

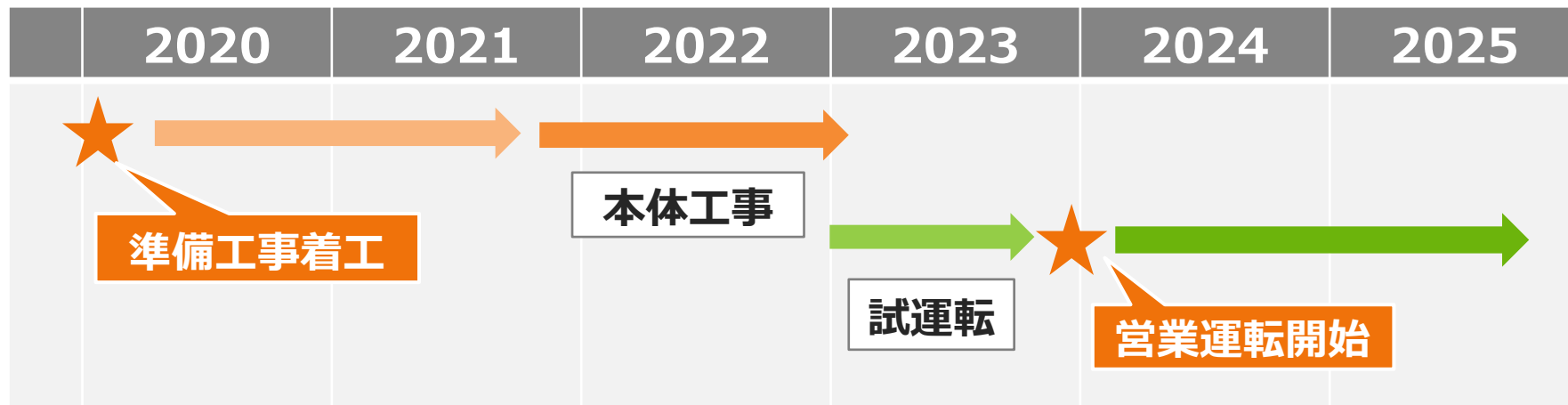
売電契約先 カンボジア電力公社

売電価格 7.9¢ /kWh 35年間固定

ダム面積、貯水量 85km² (12億m³)



現在のスケジュール(予定) (年度)





商社調達に加え、自社調達を強化
外部販売の拡大

売上高

(億円)
1,600

1,200

800

400

0

886億39百万円

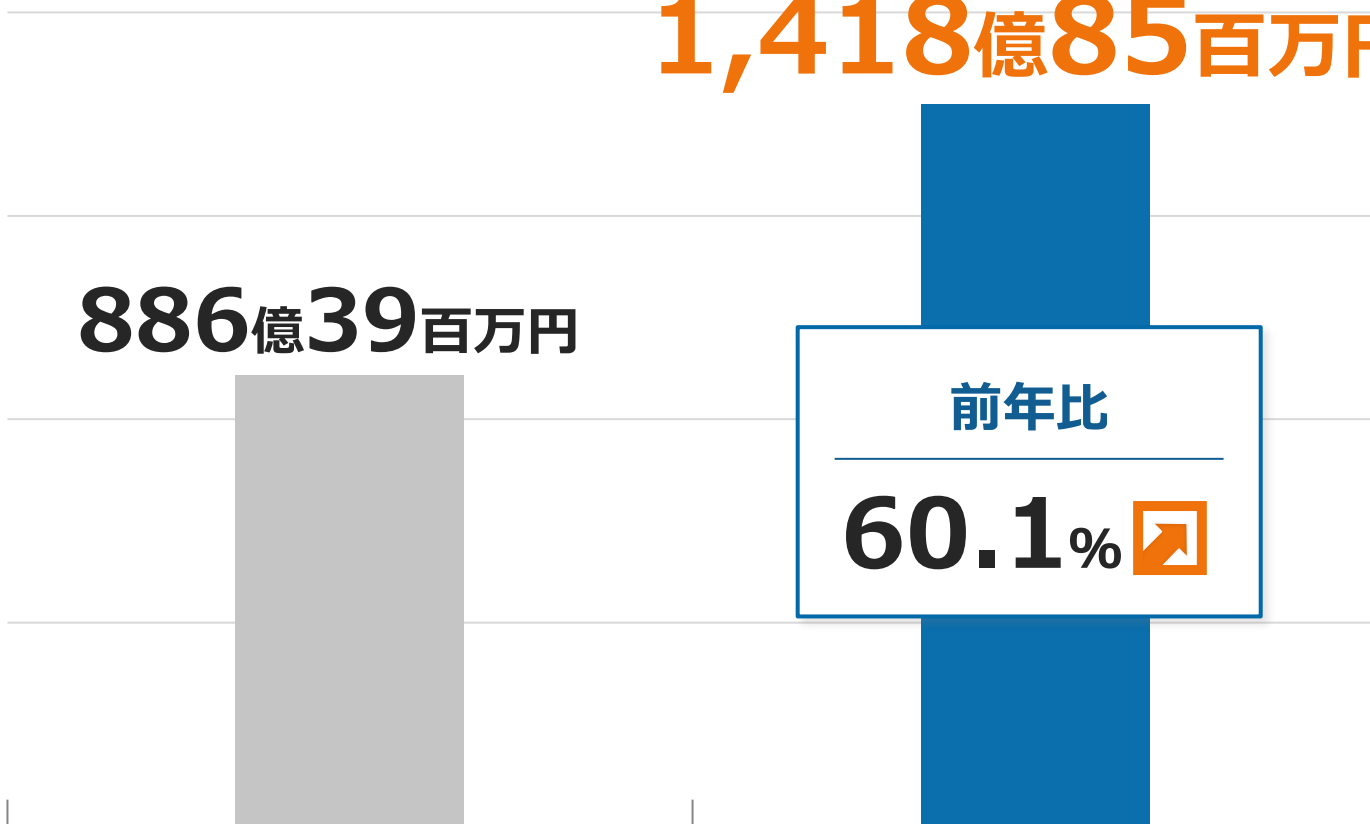
1,418億85百万円

前年比

60.1% 

'20.3期

'21.3期



営業利益

(億円)

180

120

60

0

92億46百万円

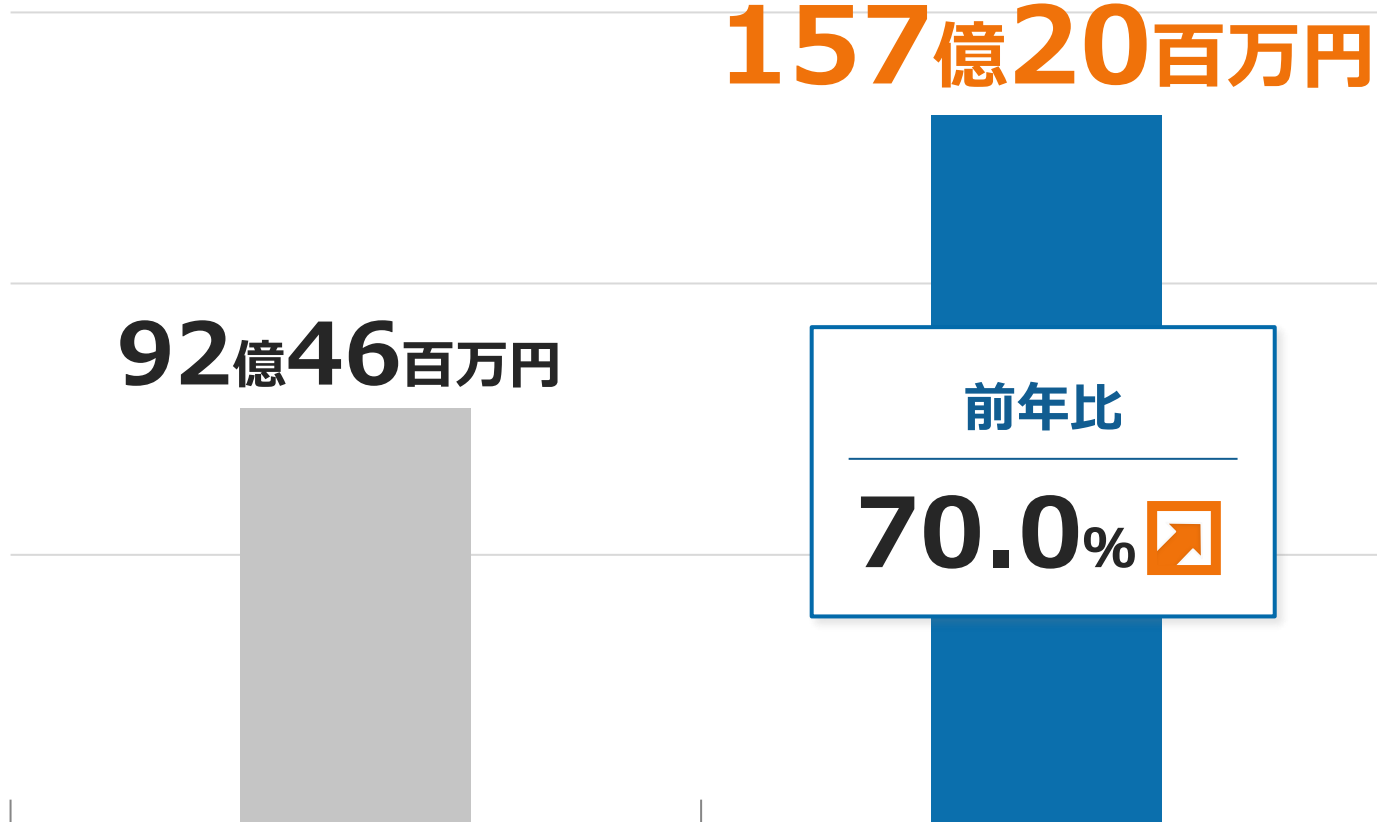
157億20百万円

前年比

70.0% 

'20.3期

'21.3期



経常利益

(億円)

180

120

60

0

87億64百万円

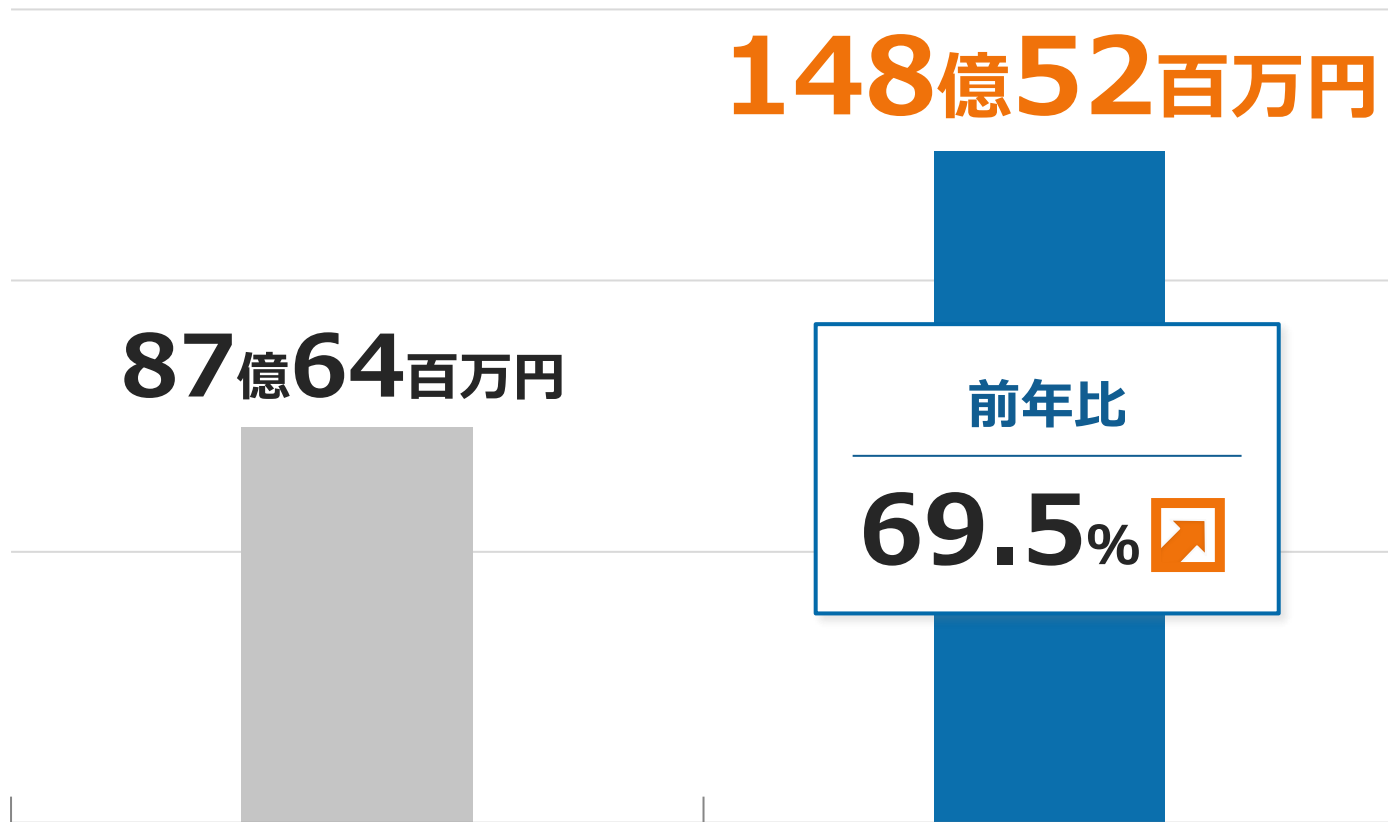
148億52百万円

前年比

69.5% 

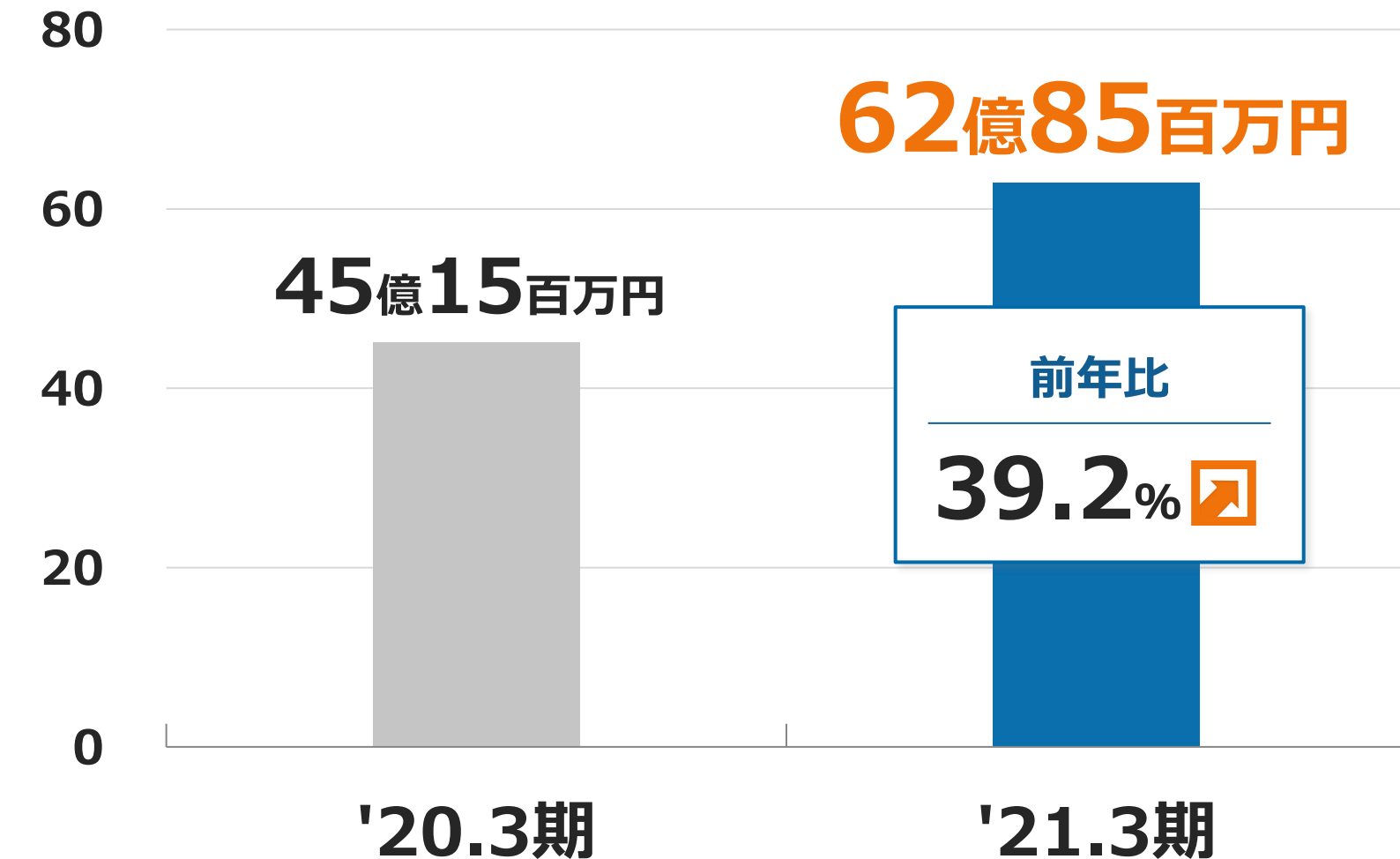
'20.3期

'21.3期



親会社株主に帰属する当期純利益

(億円)



資産合計

1,278億79百万円 **前年度末比** 230億99百万円 

流動資産 550億49百万円 **前年度末比** 187億62百万円 

固定資産 728億30百万円 **前年度末比** 43億36百万円 

負債合計

733億82百万円 **前年度末比** 28億64百万円 

流動負債 299億64百万円 **前年度末比** 41億00百万円 

固定負債 434億17百万円 **前年度末比** 12億36百万円 

純資産合計

544億96百万円 **前年度末比** 202億34百万円 

売上高

1,418億85百万円

前年比

60.1% 

営業利益

157億20百万円

前年比

70.0% 

経常利益

148億52百万円

前年比

69.5% 

親会社株主に帰属する
当期純利益

62億85百万円

前年比

39.2% 

**過去最高の販売電力量を達成
(約336万MWh、前年比+28.4%)**

自社・相対電源を基盤とした調達

電力トレーディング量増加による売上・利益への貢献

燃料の自社調達増加、発電所の高稼働を達成

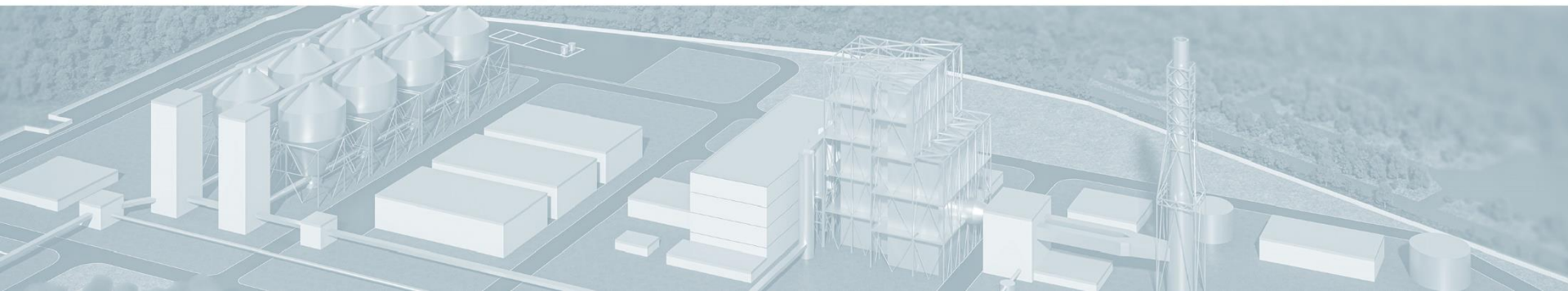
**過去最高の売上高、経常利益を達成
(売上高1,418億円、経常利益148億円)**

コロナ禍においても売上高、純利益増を計画

(単位：億円)	2021年 3月期 (実績)	2022年 3月期 (計画)	増減率
売上高	1,418	1,585	11.7%
営業利益	157	114	△27.5%
経常利益	148	115	△22.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	62	65	3.4%



今後の経営戦略 (対処すべき課題)



2030年に向けて ～当社の方向性～

① 燃料事業

- 商社、自社調達
- シンガポールに拠点開設/外部販売
- **グローバルパートナーと提携**

② 発電事業

- 土佐/佐伯/大船渡/豊前(稼働中)
- 沖縄(試運転中)、坂出(アセス中)
- カンボジア水力(準備工事中)
- **石炭火力のバイオマス混焼・専焼**

③ トレーディング事業

- 相対電源、JEPXからの調達
- 電力トレーディングにより収益に貢献
- **自由化での重要性は拡大**
- **CO2排出量の二国間取引**

④ 小売事業



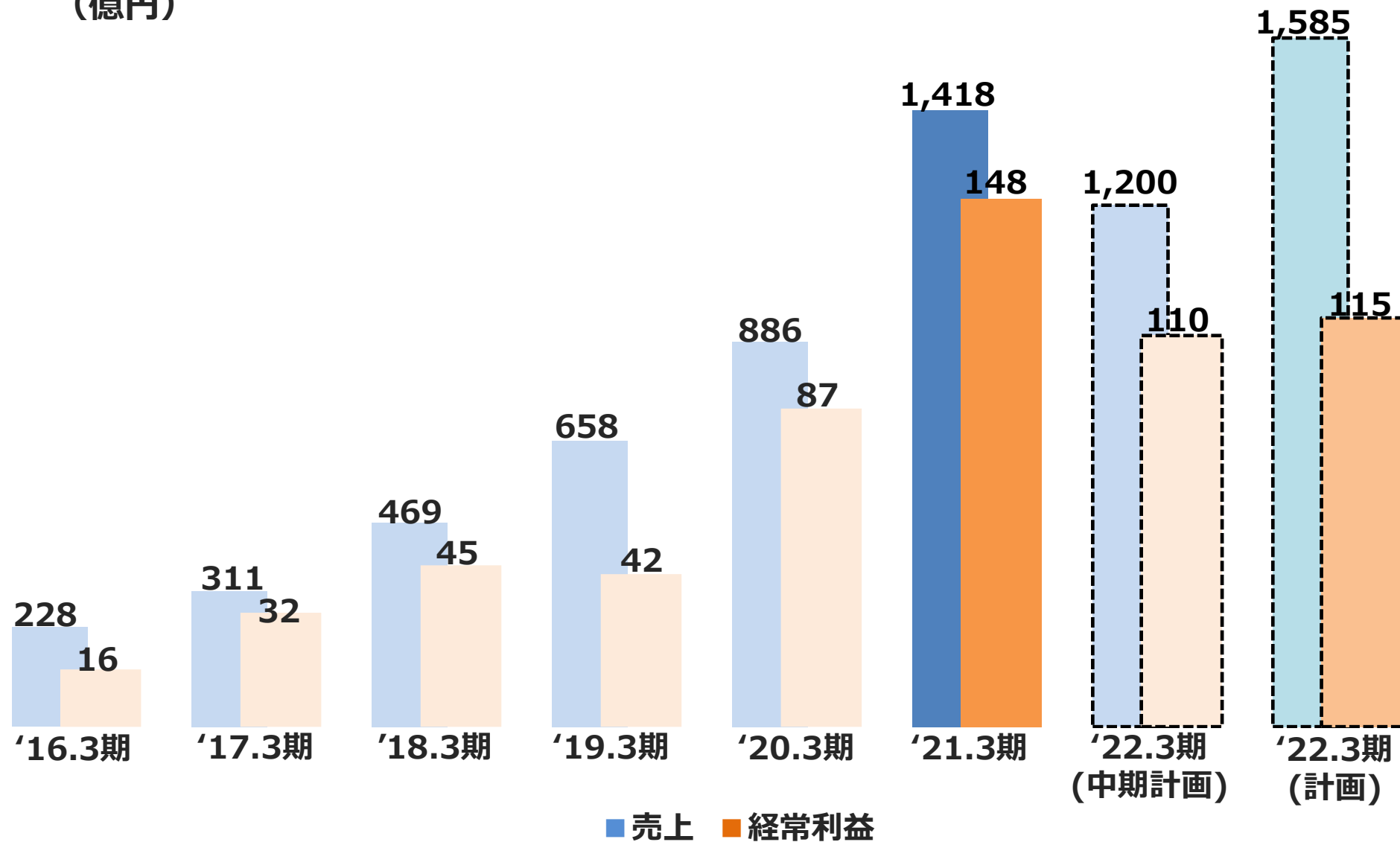
⑤ 研究開発事業 (R & D)

- 「ニューソルガム」開発
- **石炭火力のバイオマス混焼・専焼への技術開発**
- **水素発電プロジェクト**

脱炭素社会の実現

売上高・経常利益の推移

(億円)



経済・社会

- ・RE100や環境価値取引を行う需要家増
- ・国際的に高い我が国の再エネ調達コスト抑制

政策・技術

- ・電源構成の大幅な変化(石炭火力の退出)
- ・水素等の技術開発や非化石価値取引の環境整備加速

当社の方向性

電力自由化

販売電力拡大、M&Aの検討

CO₂フリープランの販売拡大

トレーディング強化

脱炭素化

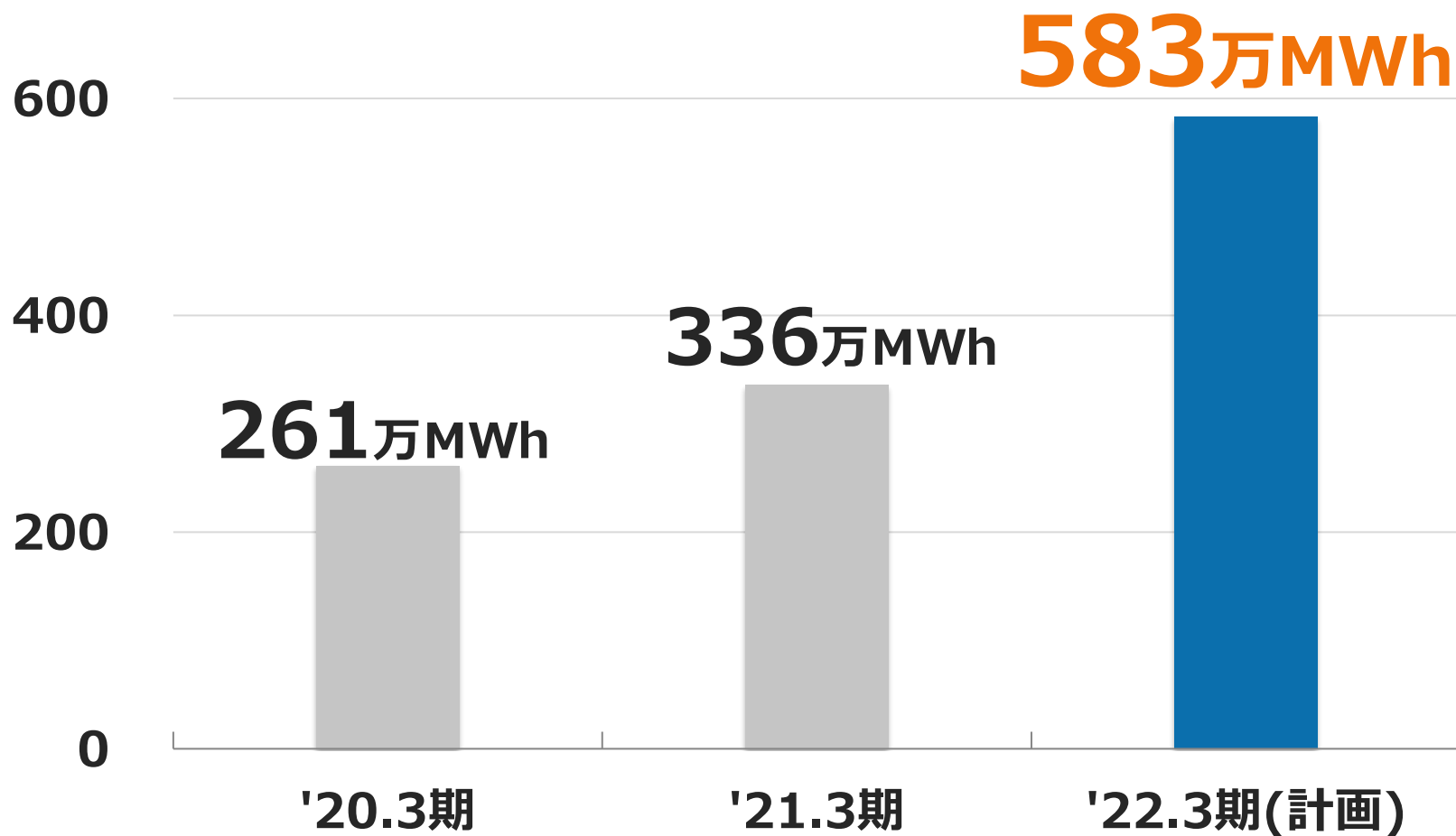
国内外でのカーボンフリー電源開発

非効率石炭火力の
バイオマス混焼・専焼

再エネ発電の技術革新
(バイオマス・水素)

販売電力量(高圧+低圧) 計画

(万MWh)



前年比 + 73.3%を計画

新バイオマス燃料「ニューソルガム」の開発

⇒安価、大量、安定的に調達

非効率石炭火力のバイオマス混焼・専焼への転換

世界最大級のNon-FIT大型バイオマス発電の実現

⇒CO₂フリー電源として活用

水素発電プロジェクトの開始

⇒コスト、大規模化、連続性の実証を推進

新バイオマス燃料「ニューソルガム」の開発

2021年度内にベトナムで作付開始、日本向け輸出を目指す



現在のスケジュール(予定) (年度)

2021

2022

2023

2024

2025

2026

バイオマス燃料取扱量は
300~500万t以上へ

試験作付・
ソルガムペレット製造

ソルガムペレット
輸出開始

ソルガムペレットの輸出順次拡大

非効率石炭火力の稼働とCO₂削減を同時に実現

ニューソルガム

再エネ主力電源化に向けた
イノベーション

非効率石炭火力の
バイオマス混焼・専焼

Non-FIT
大型バイオマス発電所

CO₂フリープランの供給



日本のエネルギー政策にとって意義は大きい

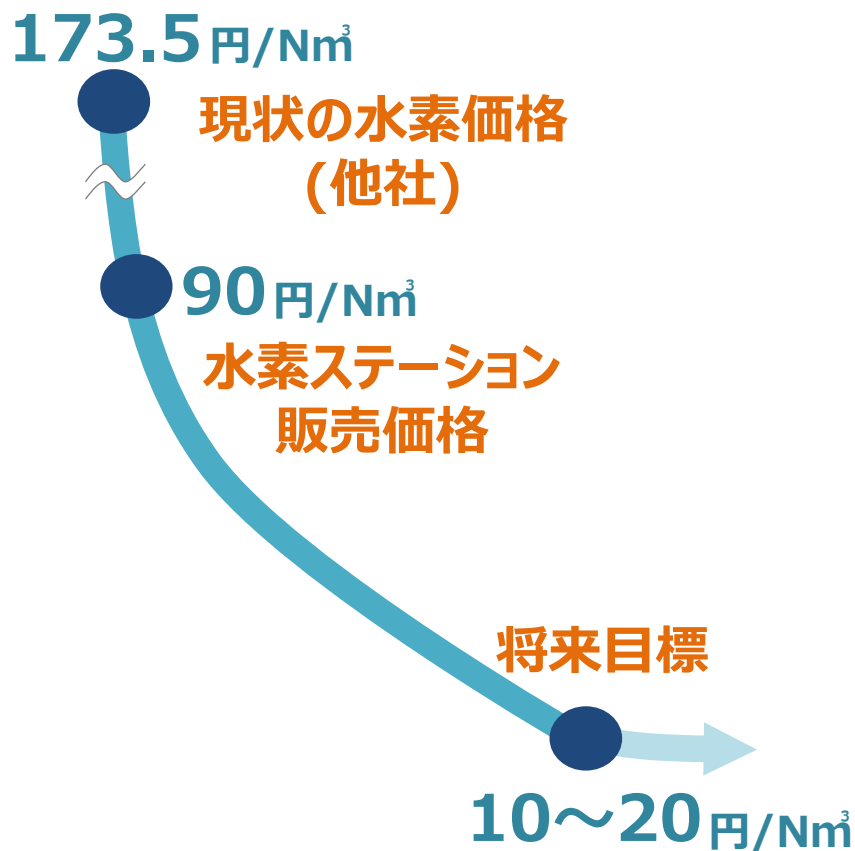
Non-FIT大型バイオ実現に向けた進捗

- 建設予定地は「新潟県 聖籠町 東港近郊」で決定
- 系統接続の申し込みは2021年1月に完了
- 燃料はニューソルガム及び木質ペレットを使用予定
- 環境アセスの手続き開始、現況調査を実施中

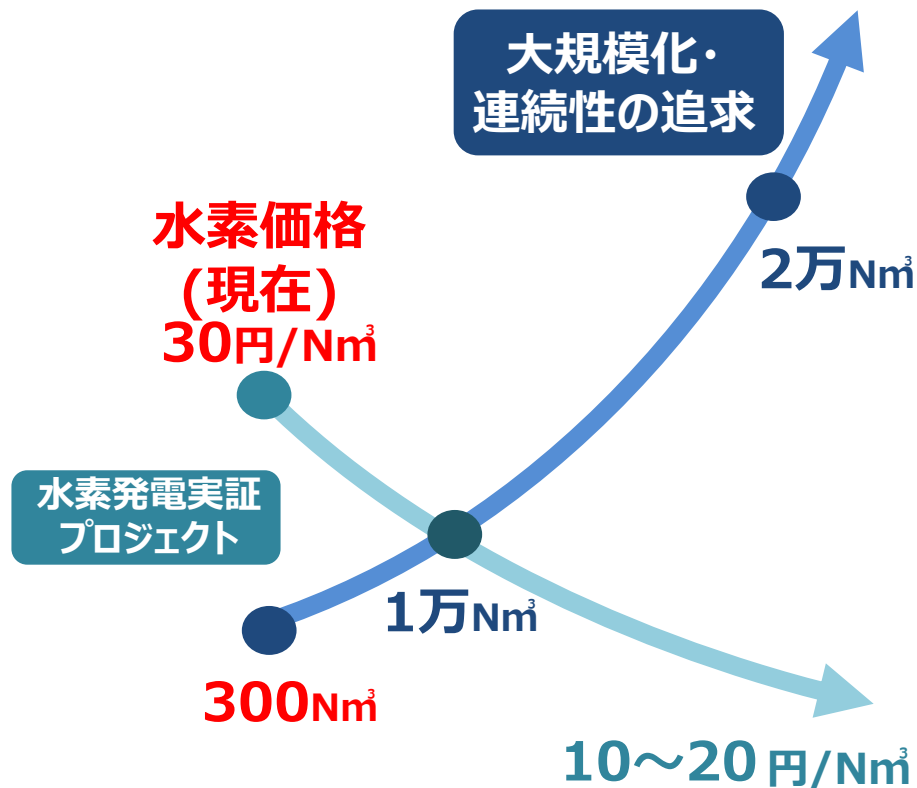
建設予定地決定、環境アセスの手続き開始



水素価格の現状



当社の取り組み



政府目標10~20円/Nm³の早期実現

2030年脱炭素に向けて ~ESGを基軸に~

海外施策

国内施策

カンボジア
水力発電

ベトナム、フィリピンでの
バイオマス発電所建設計画

ニューソルガム

水素エネルギーの展開
(コスト低減と大規模化の実証)

非効率石炭火力の
バイオマス混焼・専焼へ転換

国内
バイオマス
発電所

6基
体制へ

Non-FIT大型
バイオマス発電所

SDGsの高まり



イーレックス株式会社
第23期 定時株主総会
2021年6月22日

